

「受け継がれる信仰」
テモテへの手紙二 1章3-10節

私たちの信仰は、自分一人のところで始まり、自分一人のところで終わるものではありません。私たちが今日ここにいるまでには、先に歩んだ人々の祈りや証しがあり、何よりも、世代を超えて働き続けてこられた神さまの恵みがあります。

パウロはテモテに、「あなたの祖母ロイスと母エウニケに宿った信仰が、あなたにも宿っている」と語りました。テモテの周りには、祖母ロイス、母エウニケ、そして離れたところから彼を覚え、祈り続けるパウロがいました。信仰は、人から人へそのまま移し替えられるものではありません。信仰を与えてくださるのは神さまです。けれども神さまは、誰かの祈りや証しを用いて、一人の人の信仰を支えてくださいます。「受け継がれる信仰」の背後には、誰かの祈りがあるのです。

しかし、信仰を受け継ぐとは、前の世代と同じ歩みをそのまま繰り返すことではありません。先に歩んだ人々が証ししてくれた神さまを、今度は私自身が信じ、その神さまと共に生きることです。親の信仰によって自動的に子どもが信仰者になるわけではありません。だから、子どもや孫が教会から離れていることを、自分の責任だと責める必要もありません。私たちにできるのは、祈り、受けた恵みを証しし、その人を神さまの御手に委ねることです。

パウロはさらにテモテに、「あなたに与えられている神の賜物を、再び燃え立たせなさい」と励ましました。テモテには確かな信仰がありました。しかし、伝道者として歩む中で恐れやためらいもあったのでしょう。だからパウロは、「神はおくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をくださった」と語りました。今日、私自身が神さまを信頼し、祈り、与えられたものを用いて生きる。受け継いだ信仰は、受け取っただけで終わるものではなく、今度は私たち自身が生き、次の人へ手渡していくものです。

そして、私たちが本当に受け継いできたものは、人間の立派さではありません。イエス・キリストによって与えられた神さまの恵みです。キリストは死を滅ぼし、福音を通して不滅の命を現してくださいました。「あなたは神に愛されている。あなたは忘れられていない。あなたの命は死で終わらない。」この福音が、二千年にわたって世代から世代へと手渡されてきました。

詩編 71 編は、「年老いて白髪になっても、来るべき世代にあなたの御業を語り伝えさせてください」と祈ります。敬老祝福式とは、ただ長寿を祝うだけではありません。長い年月を通して「神さまは私を支えてくださった」と証しできることも、大切な恵みです。

私たちは皆、誰かから受け取った者であり、同時に誰かへ手渡していく者です。信じさせることはできません。でも祈ることはできます。証しすることはできます。受け継いだ信仰に立ち、与えられた賜物を燃え立たせながら、この変わることのない福音を次の世代へ手渡してまいりましょう。